

京都・百々遺跡（推定第三次山城国府跡）

- 1 所在地 京都府乙訓郡大山崎町字円明寺小字百々
- 2 調査期間 一九八四年（昭59）六月
- 3 発掘機関 大山崎町教育委員会
- 4 調査担当者 林 亨
- 5 遺跡の種類 国府跡・古道跡
- 6 遺跡の年代 八世紀末～一〇世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

本遺跡はこれまで三次（一九八一）の調査を実施し、長岡京時代（八世紀末）から平安時代（一〇世紀）にかけての遺構を検出した。そ



（京都西南部）

の主なものは、掘立柱建物四棟以上、井戸跡、山陽道跡及びその側溝等である。また、中国磁器・二彩陶器・緑釉陶器・黒色土器・須恵器・土師器・銭（和同開珎



・万年通宝・神功開宝・富寿神宝）・鍔帯鉞尾・木簡などの遺物が出土した。

木簡は、山陽道の側溝と考えられる遺構の埋土を取り除いて検出した下層遺構の土壌から出土した。土壌の埋土は二層からなり、上層泥土中から木簡が、下層の砂土中からは帯金具鉞尾、銭等が出土した。

一九八一年以来行ってきた発掘調査によって、九世紀代を中心とする数多くの遺構、遺物が出土したが、これらがどのような性格をもっているかについては、現在、文献とも照らし合わせて検討中である。いま最も考えられることは、延暦一六年（七九七）、長岡京の南に移されたという山城国府の施設的一端ではないかということである。

8 木簡の積文・内容

- (1) 〔奥胡万七斗外二升〕

198×12.5×2.5 033

9 関係文献

大山崎町教育委員会『大山崎町の歴史と文化』（一九八四年）

（林 亨）